

次世代型学びプロジェクト「ひの@平山小」



6月24日(金)平山小学校で産学官共同プロジェクト第3回公開研究会が開催されました。



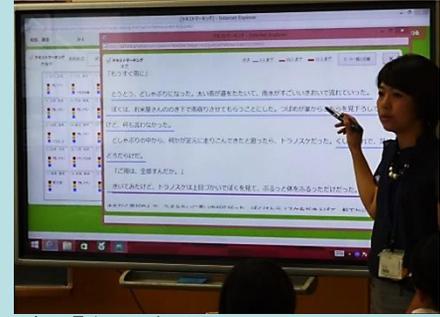
1年「こんなおと みつけた」 (生活・国語)

「クロッシングボード」を活用すると自分の画面上のカードを指で操作して他の画面へ送ることができるので、様子がわかりやすい擬音語、擬態語を互いにやり取りして文を作りました。



2年「引き算のひっ算」(算数)

「インタラクティブスタディ」を活用し、誤答・正答のパターンに基づいて単元や学年を超えて最適な補充問題や応用問題で学習しました。実際に1年生の内容へ戻って学習した児童がたくさんいたことがわかりました。



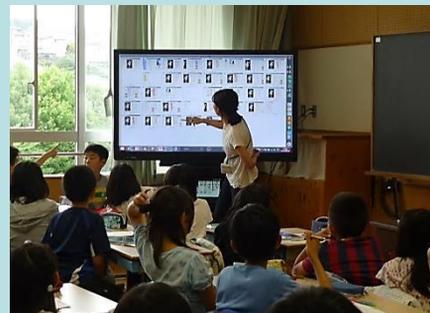
3年「もうすぐ雨に」(国語)

「スタディネット」のテキストマーキング機能やエクステンジボード機能を活用し、お互いに考えの共通点や相違点に着目しました。同じ文章に正反対の感じ方をする友達がいるなど、発見がたくさんありました。



4年「よりよい話し合いをしよう」 (国語・生きぬく科)

「Tru Recorder」(話者別音声録音再生機能)を活用して、グループでの話し合いの仕方を振り返り、良さや改善点を明らかにした後に、それを活かしてもう一度話し合いをしました。



5年「千年の釘にいとむ」(国語)

学習者用デジタル教科書とスタディネットを連携して使い、自分と友達の考えの相違点や類似点を見つけながら、筆者が一番伝えたいことについて話し合いました。



6年「武士の政治が始まる」(社会)

貴族と武士の暮らしの違いや時代背景などを資料から読み取って武士の政治が始まった理由を「スタディノート」に表現。友達の考えを知り、自分の考えを深めたり修正したりもしました。



「手書き電子ドリル」を使い、一文ずつ答え合わせをして、正しい筆順と字形を習得するまで、自分のペースで繰り返し練習しました。

わたくさ「かたち・かぎじゅん、これでいい?」(国語)

★平山小ウォッチング1・・・「生きぬく科の精神」

平山小学校の先生方は、授業で、どんな機器やネット上のトラブルがあってもあわてません。実際に、1年生の授業では機器のトラブルで使えなくなったグループがありましたが、先生は、あらかじめ用意してあった紙のカードですぐに対応されていました。「どんなときにもあわてずに最善をつくす、そのための準備も怠らない」ということをモットーとしている平山小学校。これは防災教育「生きぬく科」の精神でもあるそうです。

★平山小ウォッチング2・・・「継続と発展」

毎回、平山小学校の公開研究会には全国から参加者が集まります。大学の先生方も多くいらっしゃいます。教師教育の専門家の先生が次のようなコメントをされていました。「授業もよかったです、スタッフ全員参加の精神に満ちていたことに敬服いたしました。平山小学校の過去数年間の取組が継続・発展していることにも感心しました。」